

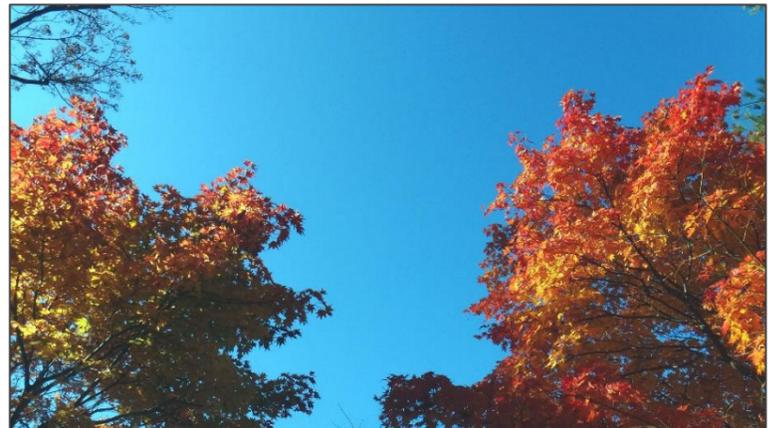
洞爺湖ビジターセンター 2014年度 自然ふれあい通信

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館では毎月1回、洞爺湖周辺の自然と親しむ「自然ふれあい行事」を開催しています。その様子を少しご紹介します。

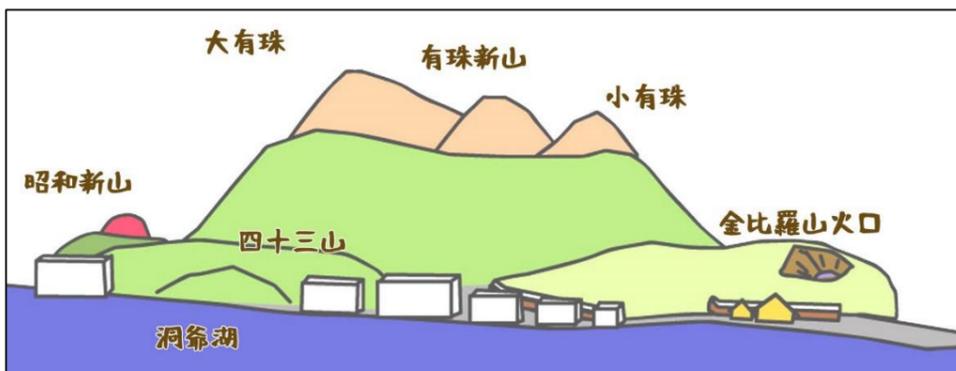
10月25日(土) 四十三山でもみじ狩り



色づいた木々の葉も残りわずかとなり、洞爺湖周辺ではそろそろ初雪が降る季節となりました。みるみるうちに過ぎ去ってしまう洞爺湖の秋を感じようと、洞爺湖ビジターセンター・火山科学館10月の自然ふれあい行事、四十三山でもみじ狩りを行いました。四十三山は1910年(明治43年)の有珠山噴火の際に地面が約170m隆起してできた山で、洞爺湖温泉の源泉があります。洞爺湖温泉はこの時の噴火がきっかけになって湧き出しました。そんな四十三山の遊歩道(約4km)を約100年前の噴火の痕跡や、秋の自然を観察しながら歩きました。



色づくビジターセンター敷地内のヤマモミジ。太陽の日に当たっているところほど赤く染まります。



洞爺湖側から見た有珠山の図です。四十三山は有珠山の北のふもと(北麓)にあります。

洞爺湖温泉側出入口から四十三山遊歩道へ入り、噴火口と頂上(標高252m)を目指して歩きました。ここで見られる第20火口は1910年噴火の中で2番目に大きい火口で、当時は深さ43m、直径130×115mでした(洞爺湖有珠山ジオパークガイド01より)。噴火から約100年経った火口は木々で覆われ、自然の回復力を実感できます。近くには今も噴気を出し続けている場所もあり、大地の力が感じられました。なお、最も大きな火口は源太穴火口とい

い、四十三山からは少し離れたところにあります。

今回の行事では、落ち葉が積もった四十三山遊歩道を散策しました。有珠山は1663年から現在までに9回も噴火している活発な活火山です。世界的に見ても研究が進んでいる火山で、2009年に世界ジオパークに認定されました。洞爺湖や有珠山のまわりには、噴火の痕跡を見られる場所(ジオサイト)がたくさんあります。下草が少なく地形が見やすい春や秋は、ジオサイトを見学するのに絶好の季節だと言えます。この時期にぜひ、みなさんも四十三山をはじめとする有珠山周辺のジオサイトに足を運んでみてはいかがでしょうか。ジオサイト見学後には四十三山から湧い



約100年前の火口に接まれた通路で記念撮影。秋は下草が少なく、火山活動で作られた地形が良く見えます。



ている洞爺湖温泉でホッと一息ついて、火山の恵みを体感するのがオススメです。

